

日本幼稚園協会主催 幼児教育講習会特集—その一

外山先生の話の前に

周 郷 博

これから四日間、皆さんと一緒に、日本の幼児教育というものを、日本の未来について考えなければならぬわけです。私は来年の三月に園長をやめますから、私の最後の年です。日本も、田中内閣になって大分変わるだろうと思いますが、私の気持ちでは、今の日本は一生懸命に考えてないと思います。何かいいかげんに考へてる、そして学校というものに頼りすぎていると思います。中国人は今、一生懸命にやってるそうです。周恩来の一生懸命さとはちがうのがあるんだと思います。そこが日本人には足りないような気がするのです、この四日間、今までと違った精神の状態で、皆さんと一緒に入りたいという気があります。

プログラムにはありませんが、前の大石環境庁長官が四日目に来てくれます。私は四日目に話をする予定で、大石さんの話のあとをうけて話をするようになっていきます。

今日は一日目で、外山滋比古さん、この大学の英文学の先生ですけれど、外山さんみたいな人が幼児教育に足をつっこん

だ、幼児教育にかかわりをもってくれるということは、本当にありがたいことだと思ふのです。日本で教育のことばかりやってた人は、教育がもうわからないんじゃないかって気がしますから……。教育学者、なんていうのも、学校というのも、疑ってみなきゃならないところに、今日、きているわけです。

外山さんが一日目に大変いい話をしてくれることになっているので、一生懸命に聞いていたきたいと思います。一生懸命というのは、お義理じゃないんです。人のために一生懸命であるような、ポーズをすることじゃないんです。一生懸命に生きなきゃならない、それはあなた方の義務です。ヨーロッパで考えたことですが、ヨーロッパには「義務」という考えがあるのですけれど、日本には「責任」ということしかないと思います。責任というのは他人との関係でごまかしがききます。もっと基本的には、義務ということがあるはずだと思います。義務を果たすということは、他人とのかけひきなんかを越えていることです。そのつもりで聞きたいと思います。